

## 崔 恩瑛 (チェ ウンヨン)

韓国出身

上智大学 文学部文学研究科 博士課程

### 思い込みと人間関係

2年間のコロナ禍がついに落ち着き始めています。この2年間は人々に過去の自由生活の大切さを感じさせてきました。共に最近は対人関係についての疲労問題が浮き彫りになっています。コロナ2年間で、授業、生活全てをオンラインで行なっていたため、不必要的交際は抑え、時間の節約ができたとすれば、徐々に回復しているオフライン生活は、2年間の自分中心の生活を打ち潰しています。コロナ期間中の生活への慣れか、人と接したりすることについて、帰宅後にエネルギーが吸い取られたような疲労感を感じている人を良く見かけます。

対人関係で最も難しいのは「思い込み」問題です。

今回財団のみなさまと一緒に鑑賞した、歌舞伎の中でもそれを強く感じました。主人公の六助が、弾正が老婆を連れていることから彼の話を信じて、弾正を孝行心深い人と信じ—思い込み、仕官の試合で勝ちを譲っていました。人の好い六助には全てをポジティブに見ていましたのしよう。

普段の生活には弾正のように人に直接、害を与えていた人は少ないと思いますが、この芝居では、率直すぎる人、そそかしい人の性格を誇張して、口先がうまいために悪い人には見えないような人間に騙されてしまう主人公のお人好しぶりを観客が理解しやすいように作られています。

生活中には、ドラマ・映画の中で見える悪人は非常に稀少で、特に「思い込み」による摩擦が大多数であると思います。「この行動は彼の役に立つと思った」「私にいいものは彼にもいいものだと思った」などの思いが、良い方向に進めば他人へ

の気配りができる人に、悪い方向に進めば思いもよらぬ事態ばかりを引き起こす人騒がせな人になります。

気づいているかもしれません、思い込みは自分を中心しているため問題が起きています。相手と相手の考え方、求めていることについての無視もしくは故意でない無意識な見落としにより問題の種は始まります。

この思い込み問題は政治家と一般市民の間、または、国と国間の外交問題にも現れます。

韓国の事例を挙げると、ある政治家がコンビニを訪問してアルバイト生に困ったことを尋ねたところ、アルバイト生は学費が高く、アルバイトをすべき負担から、勉強の時間がないという悩みを明かしたら、その政治家は勉強時間がないなら、無人コンビニを拡大していくと答えたことは有名な話であります。

戦後日本の知識人の丸岡秀子は、農村女性の生活改善と教育環境改善に大きく影響を与えていた偉人ですが、この丸岡秀子も私の基準では思い込みにしか思えないことがありました。明日のご飯が食べられないことについての対策についての質問に「農民を愛すればこそ、その進歩のための生活改善…」と答えました。

農村問題について長い目で見ると正解であると思いますが、この場合明日のご飯にも事欠く人たちに対して長い目で見ることは難しいことだと思われます。安倍前首相の老後 2000 万円問題も同じ系列と考えられます。

政治・社会運動家において、影響力がある人が活動の中心になっていることを評価すべきか、実質活動に参加して行った実績について評価をすべきかについては異論があると思いますがここでは思い込みだけについて話したいと思います。

外交においても援助を例にすれば、貧しくて飢えている国においての道路設備は本当に彼らが求めているものか考える必要があると思います。

初めて、人間関係についての思い込みについて気づいた時は自分の世界観が崩壊するほどのショックがありました。電車の中で席を譲ったのに、断わられた時、友人の間でさらに仲良くなろうと話したことで、喧嘩になってしまった時、自分の良かれという思いが時には他人に迷惑をかけることになった時… 生活では、善悪の区別が難しく、もしくは区別する必要がなく、全てが相対的であるため、より配慮が必要であるでしょう。一個一個、気を配るしかないかと嫌がるかもしれないですが、人と人での接し方の基本としては仕がないことであると思われます。

相手を観察し、本当の求めていることを考え、それを重ねていくことから、対人関係が成立すると考えます。

以上

【参考資料】

・『朝鮮日報』2021年3月25日『アルバイト苦情に「無人コンビニ」論議…野「現実を知らない」VS パク・ヨンソン側「悪意のある論評』最終閲覧:2022年6月28日

[https://www.chosun.com/politics/politics\\_general/2021/03/25/KNVY6VIE6ZBXOXH3DBCVO2DYQBQ/](https://www.chosun.com/politics/politics_general/2021/03/25/KNVY6VIE6ZBXOXH3DBCVO2DYQBQ/)

・赤澤史朗(著,編集), 北河賢三(著,編集)『戦後知識人と民衆観』影書房 2014